

『これからの博物館』をテーマに、博物館作りについて講演会を開催

第5回文化学部北方文化フォーラム

札幌大学文化学部では、『これからの博物館』をテーマに、新しい博物館作りへの挑戦について考える講演会を、10月13日(土)に開催します。国内外で活躍する作家、画家、詩人、学者、ジャーナリストなど、多彩な講師を招き、各分野の旬の話題に触れる公開講座「文化学部北方文化フォーラム」の2007年度第4回目として行います。

当日は、2本立ての講演会となります。まずはじめに、九州国立博物館館長の三輪嘉六氏を講師に、「九州国立博物館の挑戦」と題して講演を行います。

2005年10月16日、東京、京都、奈良に次いで4番目の国立博物館、九州国立博物館がオープンしました。21世紀を迎え、東アジアにおいて日本が果たすべき役割は、以前にも増して大きなものとなっていますが、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」というコンセプトを持って誕生した九州国立博物館は、アジア諸国との文化交流を推進する大きな拠点としての役割を果たしていくことを目指しています。また同時に、21世紀に相応しい国立博物館として、美術品、歴史・考古学資料などの博物館資料を収蔵・展示するだけでなく、地域社会にひらかれた「生きている博物館」を実践することが期待されています。

戦後初めての国立博物館設立までの歩みや九州国立博物館の概要、活動の様子などを紹介しつつ、今日的な博物館の使命と課題を考えていきます。

三輪氏の講演後、本学文化学部教授の木村英明が「白滝ジオパークへの試み」と題して引き続き講演を行います。

「ジオパーク」とは、「世界遺産」と並んで、ユネスコが進めるプロジェクトのひとつです。地質学的重要性だけでなく、考古学的、生態学的もしくは文化的な価値を有する地質遺産、地球遺産とでも言うべきサイトを保護・保全し、一層の活用を図ることを狙いとしたもので、これまでに中国やイギリスなどの各国で計45ヶ所が指定を受けており、最近、8つのサイトが日本初の指定を目指し取り組みを開始しています。その中に、本学の木村らが10数年にわたって調査を進めてきた白滝赤石山(黒曜石原産地)と周辺の旧石器時代遺跡群(遠軽町所在)が有力な候補として名乗りをあげ、官民あがての取り組みが展開されています。博物館の社会的役割が厳しく問われる時代、この取り組みは、地域を挙げての「エコミュージアム」作りでもあり、その成果が注目されています。ジオパークとは何か? 「白滝ジオパーク」構想を紹介しつつ、「エコミュージアム」とこれからの博物館作りを考えていきます。

入場無料です。市民の方々の聴講を歓迎いたします。

日 時：10月13日(土) 13:30～16:00

場 所：札幌大学 3号館1階 3101教室(札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1)

問合せ先：札幌大学運営事業オフィス広報担当 TEL. 011-852-9190